

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2009年12月 海外レポート

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2009 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 海外レポート

## Polycom Executive Briefing Center

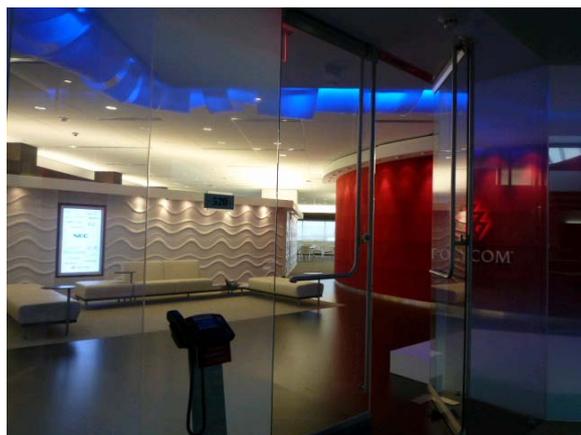
## 訪問レポート

2009年11月5日

今回CNAレポート・ジャパンの橋本(以下、筆者)は、ポリコムジャパンのご好意により、米国カリフォルニア州サンタクララ市にある、Polycom Executive Briefing Center(ポリコム エグゼクティブ ブリーフィングセンター、以下 EBC)を、見学させていただいた。今回ポリコムジャパンの方にも同行していただいた。(11月5日)

この EBC は、ポリコムが提供するコラボレーションソリューションを体験できるショールーム。昨年10月14日にサンタクララに開設された。

北米以外では、中国・北京に開設されている。東京の紀尾井町オフィスには、EBC のコンセプトを取り入れ、より会議シーンの体験に特化した「東京カスタマー ブリーフィングセンター」が同時期に開設されている。



EBC の入り口(左手のディスプレイに本日のメインの来場者と、各国語で書かれた挨拶が表示されている)

EBC では、いくつかのエリアに分かれている。(1)企業を紹介するビデオを視聴するスタンディングミニシアター、(2)

音声技術体感コーナー、(3)コラボレーションソリューションのメリットを紹介したコーナー、(4)過去の製品から現在の製品まで展示したスペース、(5)RPX や TPX を体験できるスペース、(6)ポリコム製品を設置した、複数ある大小の会議室。コーナーとかスペースとここでは書いたが、実際にEBCでそのように言われているわけではなく、筆者がこのレポートを作成する上で便宜上わかりやすいようにそのように記述した。

まずは、企業を紹介するビデオを視聴するスタンディングミニシアターに案内していただいた。ここでは、米ポリコムの企業イメージを伝えるためのビデオを視聴できるところで、コミュニケーションツールのあるべき姿やそれに対する企業としての姿勢が伝わる内容だった。



## スタンディングミニシアター

「コミュニケーションをよりリアルに、人間味のある形(humanize)で実現するソリューションを提供する企業がポリコムである。」ビデオに出てくる CEO ロバートハガティ氏はそう語る。リアルなコミュニケーション環境に近づけるソリューションは、感情(emotion)も伝えることが重要だという。



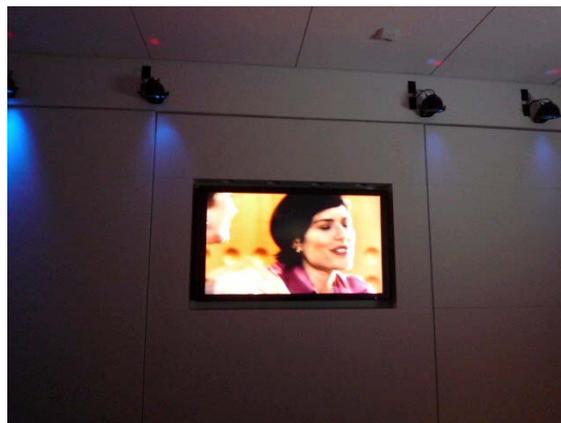
### 音声技術体感コーナー

次に、ポリコムが開発した広帯域音声を体感できるコーナー。来場者が写真に見える半円型のテーブルの周りに立つことで、四方から聞こえる品質の高い広帯域の音声を体感することができる。コミュニケーションにおいて音声品質の重要性を伝えるためのものである。



### ビデオ会議のコストとCO2削減メリットが一目瞭然

写真(上)は、音声技術体感コーナーの横にあり、コラボレーションツールのメリットを紹介したコーナー。CO2排出削減量や出張費用削減のシミュレーションを行えるディスプレイがある。ここでは、出張頻度などを入力することで、コスト削減額やCO2の削減量が自動計算され、丸形のディスプレイに瞬時にわかりやすく表示される。コラボレーションツールがもたらすコストメリットを簡単に理解してもらうためのものようだ。



### メールが起こす典型的な誤解、ビデオ会議が解決！

一方、丸いディスプレイの反対側には、写真上の(今度は正方形の)ディスプレイ(女性が映っている)があり、ビデオが流れていた。

このビデオでは、ごく普通のオフィスの、ごく普通のオフィスワーカーに起こる、ごく普通のメールを通してよく起こる誤解をテーマにしたショートストーリーを見せていた。よくある話だと心で思いながら筆者は見ている。

込み入った仕事の内容をメールでやりとりしようとしたのが間違いのもとだった。しかも、謙遜する言葉(In my humble opinion: 自分の意見について謙遜する言葉、IMHO)などを端々にいれながら丁寧な文面を作って相手に送信しても、相手側では逆に変な疑問と不信感を起こしてしまい、思わず誤解が錯綜する険悪な関係に陥ってしまう。メールだと感情の機微が伝わらないからだろう。

さて、そこでテレプレゼンスが登場。これによってお互いの誤解や不信感が溶け、最後は「話せばわかる」のハッピーエンドとなる。

映像を使ったコミュニケーションがこういった典型的なオフィスで起こる誤解の解決にも役に立つというメッセージを伝えていたビデオだった。



ViewStation、SwiftSite、iPower 等懐かしの製品（このディスプレイ棚の反対にはさきほどのシュミレーションコーナーにつながる自動扉でもある。）

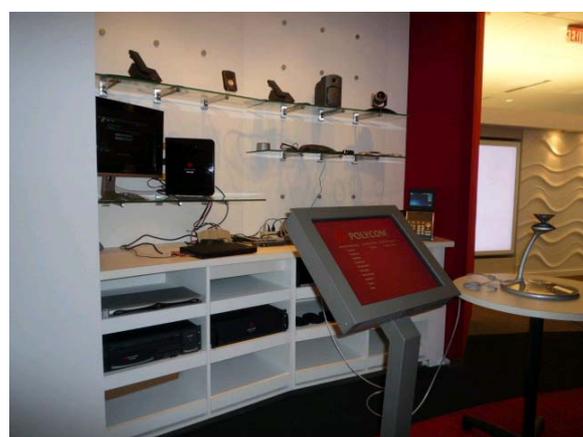
ハッピーエンドながらも、若干身につつまされる思いをしながら（筆者本人もメールでの失敗が過去にあるため）ビデオを見終わると、今度は、ポリコム製品がずらりとならんだスペースに案内していただいた（写真上、次の頁）。

気を取り直して見えてきたものは、古くは、98 年に発売した懐かしの Polycom ViewStation から、ピクチャーテル（ポリコムが 2001 年に買収したビデオ会議メーカー）の SwiftSite や iPower シリーズなど。もちろん、最近販売されている HDX シリーズや VSX シリーズなども展示されており、ポリコム製品の過去から今までが見られる。

90 年代の製品を見たときは、筆者は興奮のあまり「ViewStation だ!」、とか「SwiftSite だ!」とか大人なげなく感動し叫んでしまった。（案内していただいたポリコムの方々はこの人何? と思ったはず。すいませんでした。）



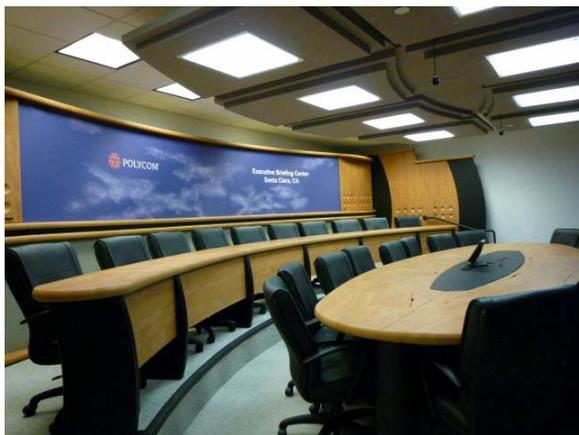
ずらりと並ぶポリコム製品



HDX や RMX、VVX1500、CX5000 など

このポリコム製品がずらりとならんだところを堪能(?)した筆者は、その後、ポリコムのテレプレゼンスシステムである RPX と TPX が体験できるスペースに案内していただいた。

この EBC には、ポリコムジャパンにある RPX にもう一段後ろ側に 10 席のシートが付くタイプを展示していた。RPX には、シート数に応じていくつかのコンフィギュレーションを提供している。ここでは、他の拠点に接続したりといったデモも見られる。



Polycom RPX

RPX の部屋から出ると、TPX を設置したスペースがある。上から吊り下げられているのは、マイクになる。RPX では、黒色だが、TPX では白色。このマイクを天井から吊り下げることによってマイクを意識せずに相手と話しができるようにしている。これも臨場感をだすためだろう。



Polycom TPX

見学の最後は、ポリコムジャパンの東京カスタマー・ブリーフィング・センターにあるような会議室が複数設置されているところに案内していただいた。そのうちの部屋のひとつの部屋が次の頁の写真であるが、他の会議室は、ユーザなのかすでに会議をしている状況だったので入れなかったが、大人数が入れる会議室もあった。



ビデオ会議が設置された会議室のひとつ

EBC では、複数の会議室にビデオ会議システムを設置し、そこを実際にユーザに使ってもらい、ポリコムソリューションの良さを実感してもらうためにあるそうだ。実際のユーザのオフィス環境に近いように会議室などがつくられている。そのほうがメリットを実感しやすいからだろう。

これで EBC の見学は終わりだが、ここで実際のかかった時間は 1 時間半ぐらいだったと思う。最後にはコーヒーを飲みながら、しばし米ポリコムとポリコムジャパンの方々と歓談させていただき、お礼を述べ EBC を後にした。



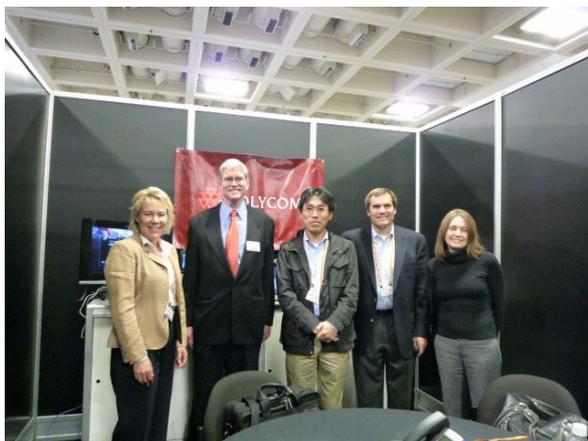
ポリコムワールドワイドでは、社員間のコミュニケーションは、ビデオ会議を日々使って業務をしているが、米ポリコムやアジア太平洋からポリコムジャパンへは日常的に社員の往来も頻繁で、今回同行していただいたポリコムジャ

パンの方がおっしゃっていたが、米本社の人も含め社員同士が非常に協力的だという。働きやすい環境なのだろう。

しかし、驚いたのは(筆者だけかもしれない)、2000名以上の社員の3割がテレワークで業務をしていることだ。ポリコムはグローバル企業で世界各地に拠点があるが、テレワーク社員も多数いるということは、これではビデオ会議なくては業務がすすまないだろう。

ポリコムの社員の方とは、今まで日本、米国、欧州、アジア太平洋も含め数多くの方々と名刺交換させていただいているが、非常にフレンドリーで自社製品に対する愛着や誇りというか、そういったものも感じられる。

実は、このEBCを訪問する前日に、筆者は、サンフランシスコで開催されていたVoiceCon(11月2日から5日開催)の会場で、ポリコムの創業者のひとりであるJeffrey C. Rodman氏(Co-Founder, CTO Voice Communication Solutions)や、Joan Vandaermate氏(Vice President of Marketing Video Solutions Group)の方々(他にも5名)ともご挨拶させていただいた。Rodman氏より音声技術について個人レクチャーを受けたりと、終始和やかなミーティングだった。技術への愛着が、この温和な人柄のRodman氏から感じられた。



そこで、創業者の一人に会えた良い機会と思い筆者は、Rodman氏に、ポリコムがなぜ今まで成功してきたか聞いてみた。1990年に創業して以来SoundStationやViewStationを世の中でヒットさせ今日までの約20年間市場でのリーダーシップを取ってきたからだ。

Rodman氏によると、「顧客の声に熱心に耳を傾けてきたからだと思う。」と非常に謙遜して答えるが、やはり、こういった人達がいる会社は強いのだろう。

Rodman氏は「ポリコムの音声技術の父」的な存在で、社員から非常に尊敬される立場の人ようだ。筆者も創業者に会えるとは思えなかったので有り難い機会だった。

今回のEBC訪問は実は筆者(写真下)からお願いして実現した。是非EBCを拝見したいのでというお願いにポリコムジャパンと米ポリコムは、快くEBC訪問の手配をいただいた。またタイミングよくRodman氏とのミーティングもセットアップしていただいた。この場にて、関係者の方々にお礼を申し上げたい。



筆者、Polycom EBCにて  
(海外レポート 終わり)

(CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介)